

「ドイツチケット」普及への対応としての 運輸連合における運賃制度の再編

ひじかた

土方 まりこ

交通経済研究所主任研究員

ドイツでは、異なる輸送モードへの乗り換えや複数の交通事業者にまたがる移動を含む場合においても、1枚の乗車券で地域公共交通を利用することが広く可能となっている。のみならず、ゾーン運賃制の採用などにより、同一の都市内や地域内に所在する輸送モードや交通事業者の間で運賃体系そのものが一元化されていることから、一定のエリア内でそれらを乗り継ぐ際には運賃も加算されない。

こうしたいわゆる共通運賃制度の運用は、輸送モードや交通事業者の相違を超越した継続的な連携関係が構築されていることを前提とするが、すでにわが国でも認知されている通り、その実現は各地で結成されている運輸連合（Verkehrsverbund）による調整に負うところが多い。ところが、「ドイツチケット（Deutschlandticket）」の普及を背景として、こうした運輸連合の役割には変化が生じつつある。

ドイツチケットとは、ドイツ全国の地域公共交通で通用する、誰もが購入可能な月額制の乗車券である。同国においては、ロシアによるウクライナ侵攻への対抗措置の実施に伴い、ガソリンや軽油の価格高騰に見舞われた国民に向けた連邦による救済策の一環として、わずか9ユーロの負担で、月初から月末まで全国の地域公共交通が乗り放題となる「9ユーロチケット（9-

Euro-Ticket）」が、2022年6月から8月までの期間限定で販売された。9ユーロチケットに対する反響は大きく、最終的には3ヵ月累計で5,200万枚を売り上げている。ドイツチケットは、この9ユーロチケットを引き継ぐかたちで、2023年5月1日より、1ヵ月あたり49ユーロの乗車券として販売が開始された。

その後、2025年1月1日には58ユーロ、2026年1月1日には63ユーロへと2度に渡って値上げされたが、ドイツチケットの利用者数は増加傾向をたどってきており、2026年5月時点でおおよそ1,450万人に達した。ドイツチケットは、月額定額で全国の地域公共交通の利用を可能とするという画期的なコンセプトを有するものの、9ユーロチケットのように価格のインパクトによって需要を喚起できるほどの低廉な設定とはなっていない。それにも関わらず広く普及を遂げたのは、制度設計段階から想定されていた通り、各地の運輸連合が販売してきた定期券よりも安価であることから、既存の定期券からドイツチケットへの切り替えが促されているためである。

ルール地方を中心とする管轄エリア内におおよそ760万人を擁する、ドイツ最大級の運輸連合であるライン・ルール運輸連合（Verkehrsverbund Rhein-Ruhr、以下、「VRR」）においても、定期券利用者の95%以上がドイツ

チケットへと移行した。この結果を受けて、VRRでは、自らで企画・販売していた各種の定期券の取扱を終了し、2025年3月1日より、ドイツチケットを標準的な定期券として位置づけている。あわせて、ドイツチケットの導入に伴って利用が大幅に減少していた様々な乗車券も廃止し、商品数を650から150へと大胆に削減した。また、従来は定期券の種別ごとに利用可能なゾーンを細かく設定していたが、ドイツチケットの利用においては、ゾーン区分そのものを意識する必要性がなくなるため、普通乗車券などに適用されるゾーン制自体は維持しつつも、その仕組みを大幅に簡素化した。

これまでの運輸連合は、交通事業者間の利害を調整しつつ、利用者利便性の向上を目的として、共通運賃を軸とした独自の乗車券の企画や運賃制度の構築と運用に注力してきた。しかし、ドイツチケットの普及により、こうした取組の意義は相対的に低下したため、運輸連合にとっては、自らが担ってきた役割の再定義を迫られているのが現状であると言える。

VRRによる運賃制度の再編は、このような環境変化への対応として理解される。なお、VRRと隣接するライン・ジーク運輸連合（Verkehrsverbund Rhein-Sieg）とアーヘン運輸連合（Aachener Verkehrsverbund）は、運賃体系そのものの一本化と簡易化により、ドイツチケットの普及に対応している。今後、各地の運輸連合がどのようなかたちで自らの存在意義を再構築していくことになるのか、引き続き注目される。

主要参考文献

- [1] 土方まりこ（2010）「ドイツの地域交通における運輸連合の展開とその意義」『運輸と経済』第70巻第8号、pp.85-95、<https://www.itej.or.jp/cp/wp-content/uploads/katsudou/2010-15.pdf>（2026年7月23日現在）。
- [2] 土方まりこ（2023）「ドイツにおける『49ユーロチケット』販売の意義」<https://www.itej.or.jp/cp/wp-content/uploads/katsudou/ks202304.pdf>（2026年7月23日現在）。
- [3] Knöchel, S. (2025) “Das Deutschlandticket - der Sargnagel für die deutschen Tarif- und Verkehrsverbünde?,” *New Players in Mobility*, pp.737-748.
- [4] ライン・ルール運輸連合ウェブサイト <https://www.vrr.de/>（2026年7月23日閲覧）
- [5] ライン・ジーク運輸連合ウェブサイト <https://www.vrs.de/>（2026年7月23日閲覧）